こんなに大変!? 都会のかいぼり　～井の頭池の外来魚駆除～

片岡友美・佐藤方博（認定 NPO 法人 生態工房）

都立井の頭恩賜公園にある井の頭池（三鷹市）は、武蔵野三大湧水池のひとつに数えられる 4.2ha の湧水池である。井の頭池では近年、外来魚の増加と水質悪化が課題になっていたことから、これらを解決するために 2014 年 1 月にかいぼりが行われた。東京とその近県は、そもそもかいぼりが盛んな地域ではないが、近年は公園や濠での実施例が増えつつある。井の頭公園は、動物園やジブリ美術館、吉祥寺の繁華街といった集客力の高い場所に隣接し、園内にも春のお花見、ボート遊び、大道芸人によるパフォーマンスといった魅力が多い行楽地で、年間 500 万人以上が来園する（東京都建設局 2007）。そのため、当池のかいぼりを実施するにあたり、公園管理者は他所ではさほど問題になっていない部類のことにも調整や対応を行った。本発表では、このような場所で行われたかいぼりの特異な事情について紹介し、人口密集地におけるかいぼりが抱える課題と波及効果について報告する。

【課題とその対応】

＜かいぼり実施決定後＞

〇公園内外の自治体、商工会、茶店組合、貸ボート屋、自治会、NPO などを対象としたシンポジウムを 2 回､説明会を 2 回開催し、かいぼりの目的や計画について説明と意見交換を行った。

〇下流域の区市と、かいぼり時に予想される河川への濁水の流下、流量の減少について協議や調整を行った。

＜かいぼり半年前＞

〇コイや国内外来魚は処遇について賛否があるため、井の頭外来生物問題協議会で検討を重ねて合意形成した。

〇かいぼりを市民参加で行うため、市民参加企画の立案と運営を NPO に委託した。

〇かいぼりに協力するボランティア「井の頭かいぼり隊」「おさかなレスキュー隊」を公募した。井の頭かいぼり隊は計 6 回の講習会を受けてかいぼりに臨み、その後も池の再生に携わっていくもので、50 人が申し込んだ。おさかなレスキ

ュー隊はかいぼり当日に魚捕りを手伝うイベントで、受付開始から3時間で150人の定員に達した。

＜かいぼり時＞
〇かいぼりイベントに合わせて、新聞・テレビなど約20社が取材に来た。
〇神田川へ放水する水には浮遊粒子状物質の環境基準が適用されるため、沈殿槽を設けて上澄みのみを流した。減水中の池に立ち入って底泥が撹拌されると河川への排水が停止され、濁水は管轄市の了承を経て下水へ排水された。下水料金が発生し、1日当たりの排水量も制限された。

＜池干し期間＞
〇池に水がないことへの当惑や、外来生物駆除に対する誤解が予想されたため、来園者にかいぼりの目的、方法、効果などを解説する仮設小屋を設置した。排水完了から湛水までの1ヶ月半、受託者とボランティアが毎日解説を行った。
〇池に入ってみたいという市民が多いため、池干し中の池底を歩いて観察するイベントを2回開催した。
〇池底にあった自転車等の多数の粗大ゴミが露出し、マスコミに取り上げられた。このため、かいぼりの目的はゴミ清掃だと思っていた来園者が多くいた。

【かいぼりによる波及効果】
〇新聞・テレビにたくさん取り上げられ、かいぼりという手法とその効果について認知されるようになった。井の頭池の外来魚問題や自然再生活動に関心を持つ人が増えた。
〇池底が見えるようになり、自転車などの大型ゴミが捨てられなくなった。
〇2014年は井の頭池のような市民参加型かいぼりが都内2ヶ所で行われた。